

第2回高山市新火葬場建設検討委員会 議事録

日 時： 平成28年9月15日木曜日 13時30分から16時まで

場 所： 高山市民文化会館 4-7大会議室

出席者：

(新火葬場建設検討委員会委員) 34名

竹内 治彦 秋山 孝正 豊田 洋一 片山 幸士 泊瀬川 孚
藁谷 雅彦 高木 淳 野尻 修二 谷口 寛子 岡村 康
大野 二郎 野中 憲治 白尾 匡 和仁 紀男 釜屋 隆司
日野 貢 小峠 賢次 森下 美由貴 中田 幸男 田中 晶洋
大下 正幸 塩屋 正道 野中 隆平 狹場 芳男 岩茸 伸一
杉本 健三 松葉 慶一 上坪 道利 長谷川 昭久 野畑 和久
今井 久和子 谷口 大悟 小坂井 唯夫 岡山 紘

(高山市)

副市長 西倉 良介

(新火葬場建設検討委員会事務局)

事務局長・高山市市民保健部長 矢嶋 弘治 市民課長 田中 一美
市民課担当監 池之俣 浩一 市民課係長 大川 誠
市民課職員 北野 千恵 市民課職員 義基 現徳

(傍聴者) 10名

開会

委員長： 前回会議の日、電車が止まってしまい、名古屋についたのが午前2時、自宅に着くまでに17時間ぐらいかかりまして、高山は遠いということを実感致しました。

また、8月22日に多治見市、大垣市、関市の現在の火葬場の見学、朝8時に高山を出まして1日かかりましたけれども、委員の方、ご参加いただきましてありがとうございました。そのことについては後ほど議論したいと思います。

それから、今朝、市長とお会いしまして、議会があつて委員の皆様と直接ご挨拶することができないけれどもよろしく伝えてほしいということで、私のほうから皆様に伝えてほしいと、30分ほど話をさせていただきました。

1. 副市長あいさつ

副市長： 今日第2回目の新火葬場建設検討委員会とういことで、大変お忙しいにもか

かわらず、ご出席いただきましてありがとうございます。

委員長からご挨拶いただきましたが、第1回の委員会におきまして、委員長に人間環境大学特任教授の片山先生をご承認いただきました。副委員長には清見町まちづくり協議会の上坪会長の互選をいただきました。このお二人を中心にさらに活発な討議をいただきまして、火葬場の建設に向けて論議を進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

お話のとおり、8月2日の会議では大変ご迷惑をお掛けしたようですが、今日は前回欠席された委員にもご出席いただいています。せっかくですので一言。

委員： はじめまして、先だつての見学会には参加させていただきました。神奈川のほうから参りました。日本環境斎苑協会と申しまして、火葬場の建設などに陰ながらアドバイスをしたり、火葬場の従業員の教育、研修会などをやっております。

副市長： どうぞよろしく申し上げます。8月22日には多くの委員の方にご出席をいただきまして岐阜県内の火葬場3カ所を視察していただきました。視察の結果をフリースキングという場でご確認させていただければと思います。

一方で、今日開催するにあたって委員長さんのほうからお話がございました、というのは、私どもは高山に住んでおまして、高山の火葬場のことはよく知っております。逆に他の所の火葬場はよく知らないということで視察させていただきましたが、有識者の方は、他の火葬場のことをよく知っていても、高山の火葬場がどんなふうなのかということをご存じでないということで、今日は西洞の火葬場を視察していただきました。後ほどそれにつきましてもコメントを頂けるかなと思っています。

このように多くの委員の皆様に参加していただきながら検討する委員会を持つということは、初めての経験でもございますので、運営や進行に事務局が慣れていない部分が多々あるかと思っております。皆様のご意見を賜りながら有意義な会議の進行・運営に尽力させていただきたいと思っております。

今回は第2回目ということで、前回の議事録の確認の後、視察の結果報告、更には火葬場の現状と市の考え方、今後の会議の進め方につきまして、皆様からご自由にご意見を賜る場としたいと考えています。限られた時間でございます、4時終了としておりますので、有意義な会となりますことをお願い申し上げまして冒頭でのあいさつとさせていただきます。本日はよろしく申し上げます。

(事務局より、配付資料の確認および会議成立の報告(出席34名、欠席8名))

2. 前回議事録の確認

委員長： それでは、前回の議事録の確認をしたいと思っております。事前に配付しておりますが、これで議事録のほうはよろしいでしょうか。

その他の委員： はい。

3. 視察アンケート結果について 4. フリートーキング

委員長： それでは、8月22日に26名の委員にご参加いただいた3つの施設の視察の際、アンケートをお願いしました。その結果について事務局のほうから報告をしてください。

(事務局より、前回視察のアンケート結果の報告)

委員長： 詳細は資料2の報告をご覧いただきたい。活字にすればこういうことですが、大切なことは参加した委員が、どう感じられたかです。生の声で何人かご発言いただきたいと思います。

委員： お別れ室と火葬室は多治見の施設、外見や待合室の感じは関市の感じがよいと直感的に思っています。

委員： 多治見の火葬場に敷地の選定から関わっていたので、一番新しいこともあって、多治見の火葬場はいいと思いました。葬儀が終わって火葬場に向かう、そこまでの雰囲気はとても大切ですし、炉の前で最後のお別れをする、その流れが大事だと思います。

それ以外の施設をみると、葬儀場と一体となっていたり、火葬する前の段階というか、火葬炉はいくつもあるが、お別れする部屋が一つしかないなど、全体のバランスが悪いなと感じました。火葬する能力は高いが、結局その手前の所のお別れとか、火葬が済んだ後の収骨とか、そのあたりの数が足りてなくて、同時には1件しか処理ができないふうに現状はなっていて、多治見はそのあたりを工夫しました。2炉に対して、お別れ室、収骨室が1つある。6炉あれば3件、極端な話をすれば、同時に火葬ができる。そのあたりのことを大事にしたいと、改めて感じました。

委員： 3カ所を比較しても仕方がありませんが、多治見は新しい施設だけあって現代的でした。最近の傾向として、遺族の方が別の遺族と交わらないということがポイントとなっていて、告別室がそれぞれの炉についていてそこで収骨もするという、現代的に考えられた施設で、参考になる施設だと思います。

関市の場合、街中に近い所にあるけれど、前に公園が配置されていて、建物も後ろの山に隠れるような形で、非常に目立たない感じで、違和感がなく、そういう点が非常に参考になると思います。

大垣市の施設は古い施設でしたが、運動公園に隣接していて、周辺環境に恵まれていると思いました。

委員： 大垣の施設は古い施設で、できたころは近くに住宅はありませんでした。周辺に大型のスーパーができてきて、現在は完全に街中にある施設となっています。大垣市の勝山斎場は新しい施設です。

今、皆様のお話を聞いていると、新しい施設では、ある程度広い敷地にしたほうが理想的な設計ができるのかな、配置計画もしっかりと立てていくことができると思います。大垣の施設は当時の意識ではそういうことができなかつたのかなと思います。高山市が新たな施設を検討する際には、十分なスペースの中で構想するというのはいつのやり方だと思います。

委員： 特に多治見の施設を見学して、本当に、けなるいなと。高山も早く建設してほしいというのが第一の感想でした。そして、建物はともかく、どこに建てるのかということ、早く、一番よい方法でこの会議の場で決めてもらうことが一番だと。場所が決まれば、建物はそれほど難しくないと思います。

もう一つ、高山の火葬場はおときをする場所がないので、ぜひ作っていただきたいし、これから高齢化していくので、畳の控室はだめで、椅子にしなければいけないと思います。子供のおしめを替える程度の畳があればいいのではと思います。

委員長： 委員がおっしゃったように、多治見の施設はほとんどが椅子と机で、それも高山のものをふんだんに使っていました。そういうのを見るとより親近感が増してくるのではないかと。あの施設の場合、タイルなどは多治見は陶磁器の町だからそれを生かし、県内の生産物を生かすという配慮がされていたかな、と。

委員： 最初に多治見の旧火葬場間違えて行ってしまって、それが高山の火葬場と同じような立地条件・規模でありまして、その後、現在の施設を見学させていただいたのですが、今的といいますか、火葬場と感ぜさせない、お金もかかっていますけれど、非常に景観がよかつたと思います。

大垣のほうは、時代的に仕方がないと思いますが、無機質な感じが若干ありました。改装中ということでよくなるのだと思いますが。

関市の施設も含めてそれぞれ違った趣がありましたが、多治見市の施設が新しい施設だったので、地元のタイルを使ったり、飛驒の家具を取り入れたり、落ち着く雰囲気よかつたと思います。

あと、立地について、関市の施設は割と街中にあり、裏側を山、表側が大きな公園ということで、病院が見えてしまったりはするのですが、住宅地、市街地に近いという所でしたけれど、近隣の住民の方に理解をいただいて作られてというお話を伺いました。

規模的には、高山市にすると広すぎるかなという思いはありました。それぞれのいいところを抜き出して、作っていただければと思います。

場所の選定について、それが一番の問題であるということは感じていますが、最後は自分自身がお世話になる所です。自分の家の横に、ということになれば、それは、ということになるかもしれませんが、見学をしての感想をもとに、いろいろな意見があがってきていますので、よい方向に話が進められればと思います。

委員： 火葬場を作れば道路が整備されます。道路が整備されれば、周辺地域が住宅街になる可能性があります。周辺の環境がよいからここに置くというばかりでなく、建物を

どのような場所でも雰囲気的にマッチするものとしていかないと、今後、建て替えのときにまた妙なものになってしまう可能性があります。立地条件として山があるから、公園があるからという考え方だけでなく、道路が整備されれば周辺地域が開発されていくので、それを考慮の上で用地を考えていかなければならないと思います。

委員： 時代がいろいろ違いますし、もう一つ、式場併設のシステムも違いますので一概には言えないと思いますが、個人的な考えですけれど、火葬場というのは、隠そう、隠そうとする感じが強いのではないかと。ただ、そうではないのだ、と。山があり、谷があり、という所だけじゃなく、もっとたくさん選択肢はあってもよいと思います。

建物について言えば、建物にも時代時代の流行があるが、やはり、明るいということが前提だろうと思います。そういったことで、皆様がおっしゃるように、早く決めると。市民の方にも待っている方が多いわけですが、耐震など、いろんな建築的なことはあると思いますが、時間的、高山の風習としての式場との分離とか、それを一緒にするのだとか、いろんな考えがありますが、早く決めるということが大事だと思います。

委員： 多治見の施設は機械がすごくよくて、排塵の流れなどの話も聞かせていただきましたが、外には灰などを排出しない、最新のものを使っているということでした。関市の施設もそのような設備で、外の環境に対して灰などを外に一切出さないような環境を作っていて、そういう技術がすでにあるんだと確認できたことがよかったです。

P T Aの代表としてここにありますので、難しい問題もあると思いますが、自分の意見としては、自分が最終的には入らなくてはならない場所であり、そういう場所を議論して決めていくわけですが、隠そう隠そうすると余計に目立ってしまうようなところもあって、関市の施設は目の前に病院が見えて、もともとできたころは木が小さくて、丸見えの状態ですできていたのではないかと思います。歳月が経ってだんだん目隠しとなるぐらいに成長してきていて、外から見たときに違和感を感じられたものも、5年、10年経つてくると、周辺環境一体の中の施設という感じに見られるようになってきたのかなと思いますので、時間をかけて施設を認めてもらえるような環境にできたらいいな、と思いました。

委員： 関市の施設は、もともと何もない所に斎場だけがぽつんとあって、中央病院や市役所が後から近隣に作られたという状況で、確かに斎場と共存できるという事例ではありますが、最初に火葬場ができたということで、町の中に火葬場が溶け込んでいったというイメージかもしれませんが、後から住宅や病院や市役所ができたということだけ、気に留めていただきたいと思います。

どうして火葬場の建設地がスカイパークにならなかったのかということを考えてみると、周辺の環境と住民の合意というのが、課題となりました。多治見では、いったんぼしゃってから8年もかかっている。早く選定評価を作らないと、施設のことは後で、まず候補地をどう絞り込むかを早急に、周辺環境、住民の合意、それから十分な土地の広さ、アクセス、安心安全な場所であるか、財政、お金の面も大事です。候補地の絞り

込みのときに、もう少し具体的な項目の設定が大切です。28カ所が復活して絞り込みの対象となるのかもお聞きしたいし、候補地の選定基準を早く考えてやっていかないと。

イメージでは隠してはだめだと言われても、やはり自分の住む場所の近くに建設されたり、公園をつぶして建設したり、学校の近くになったり、住宅の近くになったり、こういうのはやはり選考基準としてしっかり、100m離れる、300m離れる、候補地としてどういう所を選定しようかというのをあげて、そこからやっていったほうが。窯がいいとか、炉の構造がいいとか、そういうのはゆっくり考えていけばいいと思います。

高山市には広い土地があるわけですから、東京や大阪のように土地がなくて町の中に作るというのも仕方なく作っている可能性があります。それがあって町の中にと要望していることもあるのですが、高山市には土地があるのだから、もう一度候補地の絞り込みについて皆様と一緒に考えていけたらという気持ちもあります。

多治見市の施設も市街地から少し離れていますけれどアクセスが非常によいですし、参考になる所だなというふうに感じましたので、候補地の選考基準を早く決めて、候補地にもう一度最初からあてはめていくのが大事だなと思っています。とにかく、公園など、学校など、住宅地など、アクセスなど全部含めて、納得できる選択基準を決めて、市の人からも死を不浄なものにとらえてはいけないから学校の近くでもいいじゃないかと、いろんな話を聞きましたが。

高山高校は、目の前に火葬場ができるのを知らなかったんです、候補地とされているのを、校長も含めて。で、あわてて市の職員が説明に来たわけですけど、目の前を霊柩車が通ったり、子供たちの心のことも考えながら、心と環境を壊さないように。

公園を壊さないように。公園をつぶしてまでやる必要はないと思います。公園を使ってみえる方もたくさんいるわけですから。広い高山市内でよい候補地がいくつか上がっているはずなので、もう一度ゼロから考えていただけないかということ。

今、豊洲市場のことでいろいろ上がっていると思いますが、都・市に返ったら専門者会議で上がった意見がなかったことになってしまうようなことがないように、ここで委員が考えたことは市にしっかり受け止めてもらい、情報を開示してもらい、豊洲市場のようなことにならないように。この場で決まったことは優先していただくように。

委員長： 私が委員と委員長を引き受けるに当たり、今までのことは全部リセットしています。もう、ゼロからのスタートです。若干まどろっこしくお感じになるかと思いますが、本当に使える候補地からの選定をやりたい。そのためには、どういうコンセプトかを考えつつ、絞り込んでいく、と。

私は、高山にどんな土地があるのか知りませんから、そこから始めていく予定です。ただ、見学会をやったのは、もともとそれしかなかったところへ、多治見の旧火葬場もそうなのですが、もともと火葬場しかなかったところに住宅地が来てしまった、大体そういう所が多いかと思えますし。

高山の中には、街中を除けば広大な敷地があるわけですから、決して私は先見をもつ

ていないので、そうご理解いただいて、ですから議論、意見を出していただければというのが私のお願いです。当面、聞き役に回りますので。

委員： 防災のことで火葬場で、どのような関係あるかと考えていたのですが、東北の震災のとき、津波で火葬場が使えなくなりました。それで、何千人もの死亡者が火葬できず、一度土葬をして、順番に掘り起こして火葬したということがありました。そこで、高山で火葬場を作る場合には、災害に強い火葬場ということで、高山地域には活断層がたくさんあります。断層の上には候補地をあげないということ、レッドゾーン、イエローゾーンは候補地にあげないと、それだけをお願いしたいと思っています。

委員： 少し違う視点から意見を言わせていただくと、先日、バスに乗って、多治見、大垣、関を視察して、コミュニケーションが図れた、よい場だったと感じました。このメンバーで議論しつつ、一日も早く火葬場を建設していただきたいというのはおそらく誰もが願っていると思うので、うまくコミュニケーションを図りながらこういった場の設定をしていただきたいと感じました。

それと、ここにいる皆様が、火葬場を作ることに反対してみえる方はみえないんですよ？ 皆様は一日も早く火葬場を作りたいという思いで参加してみえるのか、火葬場はいらないと思っている方がみえるのならば、そこから議論していかなければならないというふうに思いながらいたのですが、委員長、そういう方はみえないんですよ。

委員長： なかなか人の心はわかりません。何回でも議論しますと申しているのはそういうことです。

委員： 今日、高山火葬場の現状を拝見しまして、時代的に古くなって、雰囲気も現代的でないという感じがしました。その辺はいろんな施設を視察されたことを参考に。

もう一つは高山らしいものが何か見つかればよいと思いました。施設は早く新しいものにしていただければというのが感想です。

委員： 3カ所の火葬場を見学し、非常に感心しました。想像していた以上の立派な火葬場で、高山にもあぁいった火葬場がほしいというふうに思いました。ただ、規模としては、多治見のような大きいものを市としても考えていないでしょうから、窯の数で建物の大きさも変わってくると思います。最低4つぐらいは考えているのではと思います。

ただ、これから飛騨も高齢化が進んでいきます。するとおそらく家族葬が増えてくると思います。大垣でも家族葬ができるようになっていましたし、多治見の場合も小さな葬儀ができるようにしてありました。あぁいった火葬場を作ってほしいなど。

また、待合室は窯が4つあれば4つ必要だと思いますし。視察した施設を参考に、早く決めなければいけないと思います。建物の内容で場所の大きさも決まってくるので、どういった火葬場を作るのかということを検討しまして、高山市にはたくさん場所がありますので、きっと適当な場所が見つかるはずです。

それと、民家が少ない所に建てるべきだと思っていますので、みんなで検討しまして、高山に合った素晴らしい火葬場を早く作っていただきたいと思います。

委員長： 多治見の施設を建設するとき、当初からああいったものを建てる予定だったのではなく、火葬場だけを作るということで進めていました。場所の選定が終わった段階で地元の要望を聞き出し、約2年をかけて最終決定をしていくその過程で、例えば公共施設や河川改修などの計画を前倒ししていったのです。

建設に反対する旗は立てられていましたが、地元の代表を委員会に入れて、具体的な要求を聞き、これは火葬場ができるまでに作ります、初めは火葬場だけだったものが、斎場も作ってほしい、どんどん要求を委員会として入れていき、多治見市にのんんでいた、と。私が引き受ける以上は、委員会が決め、市長に提言をする、その姿勢はあくまで崩したくないと思っていますので、何が必要かといえば、どんどん意見を言ってもらおうということなのです。その意見の中から共通項となる意見をまとめていき、しっかりした提言をしていくということだと思います。

7. 【議題2】委員会の運営について

委員： 有識者の委員が5人みえるので、5ブロックに委員を分け、座長になってもらい、意見のとりまとめをしてもらってはどうか。少人数のほうが意見が出やすくなると思います。

委員長： 委員長を引き受けるとき、40人超の委員会をどう運営するのか、という思いはありました。もう1回ぐらいは、現状の形式で会議をやりたいと思います。それは、バラバラになってしまうと、だれがどういう意見を持っているのか分からなくなる、そういう状態は作りたくないのです。ですから、もう少し、現状の形式で会議を行い、5人の有識者委員がいるので、7、8人単位で、もっと意見を出し合うこともできるのですが、そこではどういう議論をするのか、そうなるかはわかりませんが、この先生を中心にしてどういう議論をしてほしい、そういうことにしていこうかな、とは今の意見をいただき思っていますが、ただ、次回の10月の会議ではこの形式で会議をやり、その形式に入るにしても、共通認識を失わないようにしなければいけません。

また、早く決めなければいけない、という意見がありますが、早くしたら失敗するというのが、私の考え方で、ここだというふうに思ってからでも、もう1回考えよう、そこに時間をかけたいと思っています。

今、提言のあった分科会にするということについて、議論をしたいと思います。

委員： これだけの委員がいるので、例えば福祉について詳しい方もいるし、建物や施設の内容に詳しい方もみえます。有識者委員の方には専門分野があるので、分科会を専門的な形で運営しては、と思います。

委員長： すぐに意見を変えることになるかもしれませんが、場所選定が大切だと思います。それに対していろんなアプローチの仕方がある、基礎的なデータも見なければいけないし、自分の土地を使ってくれというプロポーザルを受けていくのか。そういうこと

をどう集約するかということは、副委員長や有識者委員と相談しながら、10月ぐらいに提言できるかどうか。火葬場の完成した形は、視察などもしているので、具体的にイメージができる、だから、先に火葬場ができて後から町ができてくるといった、そのことはどちらでも構わないと思います。場所を選定するということが一番キーになってくるのだらうと。そのことに対して、それぞれが意見を出しやすい分科会を設けて、それを全体会議に出してきて。これは自分の今の思いを言っているのであって、副委員長とも相談していないことを言っているのですが。そういうふうに進めていきたいと思っています。

それに対して、今まで市は何をどう考えていたのかということ、後半で聞きたいと思います。

(休憩)

委員長： 市の考えの説明の前に、都合により途中で退席となる委員の意見を聴いておきたいと思います。

委員： 一つ目に、どういうふうに分科会を作るのかということです。委員を引き受ける時、市からも相談があったのですが、私はまちづくりの専門家としてこの場にいるのです。専門分野に分けて分科会を作っていくという考え方もありますが、商工関係の方としてこの会議に加わっている方もみえるのですが、そういった立場としてここで意見を述べようとすると、あまり浮かんでこない。何か背景を背負って会議にいらっしゃるにしても、そこに限定して意見を述べようとした時、どういう発展があるかなという、なかなか描きにくいことがあります。

また、委員それぞれがさまざまな業務を抱えていて、日程調整がなかなか難しい中で、毎回出席することがかなわない中では、分野を絞っての分科会が機能するのかというのは心配するところです。むしろ、そういった縛りを作らないで、意見の言いやすい小さな集団という形で、意見を引き出し、まとめていくお手伝いをさせていただくことのほうがいいのではないかと、小さなグループを作ることにに関して思ったことは、そのようなことです。

それから、本日午前中に今の火葬場を見学させていただきました。施設は古い施設で、新しく建て替えたいというご意見は当然かというふうに拝見したところですが、その場所だけでいいますと、意外に両脇に広いスペースがありまして、ここで建て替えるということもできるのではとも思ったのですが、大きな問題があるなと感じたのはアクセスに関することで、周辺の道路が非常に狭い、住宅街の中を通っている、広めの施設を作ったならば交通量も増えるでしょうし、そういった点でアクセスのことで大きな課題が出てくるのではと感じました。今日、視察した施設の話を知っていると、単体で考えるよりも、アクセスとか周辺部分も含めて考えないといけないのではと感じました。

先ほど意見がありましたとおり、しっかりとした施設が建設されたら周辺開発も進んでいくということが確実に起こると思いますので、そういったことも含めて、周辺がどうなっていくのかということも考えていかななくてはいけないのではと思います。

私が市の仕事をさせていただくときは行財政改革のことをお手伝いすることのほうが多くて、これからあまり大きな施設を作ってはいけないよと言っています。久々野の施設が相当に立派なのだから、必要最小限の施設を考えていく、よその施設を見てあまり夢を膨らませるのもどうなのかなとも感じました。現実的、必要最小限の施設の建設に対して必要なスペースはどれだけで、それからアクセスがどのように確保されるかという中で、おのずと場所は絞られていくのではと感じています。

委員長： 午前中、現在の施設を見学している時、やるならこうする、と大きなことを考えていたんですが、委員は、最小限この程度でできるよ、という意見で、やはり、同じ委員の中でも違った見方があるということです。今、委員が懸念されていた、分科会について、何々分科会というのは、まだつけられないのではと思っています。そして、それぞれが背負っている団体の代表というのではなくて、そこを踏まえての意見もあるだろうし、離れての一市民として集まっているのだと思っていますし、分科会についてはまだ検討していくという段階にあります。

5. 火葬場の現状と市の考え

(事務局より「3. 新火葬場の必要性と既存4施設の継続利用」まで説明)

委員長： 既存の施設を継続して利用していくということに対して、質問等はございませんか。

(委員より意見がなかったため、事務局より「4. 必要炉数の算出」について説明)

委員長： 結論としては4基作りたい、と。現状は3基ですね。現状3基で困ったことはないですか。

事務局： 現状では困ったことはありません。現在、高山・丹生川・清見地域に住む2割ほどが久々野火葬場を使っていますが、ニーズはそれ以上にあると考えています。

委員長： 久々野火葬場の整備は当面しないのですか。

事務局： 定期的な修繕工事を行っていますが、大規模な建て替えは考えていません。

委員長： 久々野火葬場の2基はきちっと動いていくことが前提となるということですか。

委員： 荘川火葬場と飛騨市の松ヶ丘公園斎場は古い施設ですが、建て替えの計画はありますか。

事務局： 荘川火葬場は利用件数が少ないこともあり、建て替えは考えていません。松ヶ丘公園斎場の建て替えは飛騨市が考えることとなります。

委員： (平成47～52年の年間死亡者数の) 1, 292件というのは上宝と荘川を含めた数字ですね。その地域を除外せず6基と算出したことは、大分余裕を持っていると

考えてよろしいでしょうか。

事務局： 現状で9割の方の火葬が高山火葬場と久々野火葬場で行われている、ということもあります。確かに、人口推計において、国府、上宝、奥飛騨温泉郷、荘川の方の人数を引いて算出するという考え方もありますが、新火葬場は全市域の方が利用できる火葬場として整備したいと考えており、ご指摘のとおり、若干の余裕をみているところもございます。

委員： 必要火葬炉数が5.1基から6基に切り上がっているものですから。4基台になることもありうるということならば、1基増設する必要があるのか、ということになります。

事務局： 最多火葬件数という、(資料3-2) 19ページの数字ですが、3パーセントから5パーセントを除外するというので、4パーセントを除外しようとするので年14日除外するということになります。14日がどのあたりかといいますと、最多火葬件数は6件か7件かというところですが、7件を除外しない場合でしたら基本必要炉数は5.95となる、といった状況もございます。これは算出式であって、実態はどうかということもございます。5ページの「住所区分と利用火葬場」の中で、高山・丹生川・清見地域の方が新火葬場の主な利用地域の方ということになりますが、11時半、12時半開始の火葬の予約が埋まっているために久々野火葬場を利用する場合は2割程度はあるといったことから、高山・丹生川・清見地域の方が、もしも炉が1つ多ければ、そちらを使われるのではということもございます。先日の視察の施設の規模の資料を見ていただくと、他市の炉数と比べても4炉から5炉ぐらいはあっても過大とはならないのでは、ということもあります。11時半、12時半の火葬のニーズにどれぐらい答えていくかということがポイントになるかと思えます。

委員長： 高山市が非常に広域ということもあって、集中している市域でしたら、式もパタパタとやって、納得しやすいのですけれど、4つほどに分かれていることを知って、委員会としてどういうふうを考えていくか。一応、市の意見を伺ったという形で、よろしいでしょうか。

6. 【議題1】新たな基本方針について

委員長： これまでの（火葬場建設の）基本方針について、事務局から説明をお願いします。

(事務局より、これまでの基本方針について説明)

委員長： 市民説明会や市の考え方を勘案しながら、基本方針を考えて運営にあたったと。市のほうからは、委員会の新たなコンセプトを考えていただくのだと、そこから考えてくださいと。ただし、そこからまた延々とやるのか、例えばここに書いてある基本方針というのをふまえてやるのか、2つの選択肢があるわけです。基本方針というのは、延々

と考えてやってもいいのですけれど、だいたい頭に入れながらやっていくということにすれば次のステップに行けるし、そうではなくて、コンセプト作りからやりましょうよということでしたら、そこからやりますし。ご意見をお伺いしたい。

委員： 市が評価方法を作って、1位になったのがスカイパークだったわけですが、そのスカイパークに問題があった。費用が思っていた以上にかかるとか、場所が狭い、そのような理由で白紙撤回になったというところですか。そこで、市に確認したいのですが、すぐに白紙撤回するのではなく、スカイパーク以外の候補地をなぜ検討しなかったのか。なにも検討していないですね。そのことに理由があるならばお聞きしたい。

委員長： 私は聞いても聞かなくても変わりはないと思います。新しい委員会として発足したわけですから、どういうやりかたでやっていきたいと思いますか。市はどのような考え方でやったのかということですが、委員会としてそっくり変えてしまうのか、あるいはこういうものを基本的に抑えながら考えていったらそれでいいじゃないかということでしたら前に進めますよ、と。スカイパークがどういういきさつで、どういうふうになったということに関して、私自身は関心がありません。白紙撤回したことについて議論するより、前に進めたいというふうに思っています。何かの参考のために今後聞くことはあるかもしれませんが、今の議論の中ではそういうふうには考えていません。これは私の意見です。

委員： それはそれでよいのですが、確認がしたかったのです。市のほうでは、なぜスカイパーク以外の候補地を検討しなかったのか、分かるのならば教えていただきたい。方針そのものは委員長の言うとおりで、私もよいと思います。その辺りだけ、市のほうで、どこかで教えていただきたい。

委員長： 今となっては小さな問題でも、当事者としては大きな問題ということは認識しています。ですから、委員会として今そのことを聞くという形より、委員会の今後の運営の中でも、市とのこういったやりとりは起こってくると思いますので、そういう時に聞かれる場面も出てくると思います。委員会の議事としては、次のスタートを切るというふうにしたい。私も何も聞いてはいませんので、そのようにご理解いただけないでしょうか。

委員： わかりました。

委員長： 決して無視をするということではなく、委員会としてはそういう方針で行きたい。よろしいでしょうか。

委員： 異議なし。

委員長： そうすると、基本方針をもう1回叩くのでなくても、全部を入れることは難しいとは思いますが、困ったことが書いてあるとは思わないので、これをベースに委員会としては考えていくということで。

委員： 私もここに書いてあることは撤回するほどのことではないので、できれば使える

ところは使っては、と思います。ただ一点、気になるのは、**資料4**の流れを見ると、課題がまず出てきたと。よくない所、直してほしい所が出てきて、課題が出たら、それが基本方針にそのまま行っている。むしろ、議論を聞いていると、火葬場は単に火葬をする所というのではなく、最近では都市活動の一つとして、亡くなった方をどういうふうにするのかということが大切です。我々の気持ちを含めて、そういう新しい展開をしたほうがよいように聞こえたのですけれど、そうすると、基本方針のまとめ方としては気になります。問題点があって問題がよくなることが方針という。方針というのはもう少し前を見てというのか、我々の活動、都市の活動の一部ですから、亡くなった方をどういうふうにお送りして、そのためにどういう都市の施設を作っていくのか。そういう視点の方針というまとめ方。抽象的で申し訳ないけれど。

委員長： よく分かります。委員、これをベースに方針を考えていただけませんか。

3つになっても、あるいは一文になってもいいと思うので。いかがでしょうか。

委員： 5つのうち1つめは、どういふものを作るのかという目標というのか、イメージというのか、これが一番だと思うのです。2番以降というのは、火葬場が備えるべき条件というのか、2番目の近隣住民のことをそんなに簡単に考えていいのかというところというわけでもないのですけれど、やはり1番と2番以降は格が全然違うと思います。そういう意味で、1番に関する議論は、この場で皆様から意見をたくさん出していただいて、まとめるほうがよいのではないかと思います。2番以降のものは黙っていても自然に出てくる話で、公共施設として備えるべき内容であって、どういふ火葬場を高山市民が望んでいるかというのは一度議論をしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

委員長： 高山市民の方はいかがでしょうか。私は議論することはやぶさかではないのです。また10月6日にやればよいのだから。どうでしょうか。

委員： 荘厳なものを作ると書いてありますが、財政的なことが分からないので、どの程度の規模のものを作れるのか、と。土地を買い上げて作るのか。お金のことも大事ですので、多治見のように立派な施設を作ってもよいのだろうか。故人との最後の別れのセレモニーにふさわしい火葬場といってもそれぞれの感覚によって違うと思いますが、最終的にはお金のこともありますので。どの程度のものをイメージしているのか。ふさわしい環境の整備といっても、環境の整備にもお金がかかりますし、財政の部分について教えていただきたい。これだけのものを作りましょうと言って、無理です、と言われてきたらそれまでです。高山市の土地の中で選ばなければならないのか、イメージがわからないものですから、教えていただきたいのです。

委員長： 私が2つの火葬場建設をやった経験では、予算は決め難しいのです。例えば、道路整備をするといった時に、これは都市計画の中でやっていくということなのか。場所の選定が具体的になると、お金の問題がちゃんと落ちてくる。先ほど多治見の例を申したように、いろんな計画が市としてある。あるいは県としてある。それを前倒ししてもらおうことでやっていくのか。その経費は火葬場の経費からは外していくとか、そ

ういうことになってまいりますし。どちらかという、どういう場所でどういうものにするというある程度具体的なことが出てきたときに、お金のことを弾いていくというふうにしないと。マンションを買うのならばそれでいいのですが、そうではなく、いろんな公共整備をしなければいけない。その算入の仕方が違ってくるので、火葬炉を4基作るという計算ができて、それだけではないのです。ここに出てきていることをやろうとするとどれだけお金がかかるのかわかりませんし、お金の問題も大切です、具体的に委員会としていくつかの提案をしていくものだと思っていただいて、最初にお金がどれだけ出せますか、ではないと思う。

委員： 市の覚悟といいますか。大切な事業ですので、コスト意識も大切だと思うのです。

委員長： それは、卵とニワトリの議論になります。委員会としてどれだけのプランを作っているか、その過程で計算をさせます。必ず計算してもらわないといけないと思いますので、大事な議論ですが、委員会のほうから具体性を出していかないと、市は答えられないと思います。よろしいでしょうか。

委員： よいのです。

委員長： （基本方針は、）有識者の委員にお任せしてどうでしょうか。議論しますか、こんなものがほしいとか。先ほど委員の言われた、いろんな施設のケースを見ていますから、ある程度のイメージから大幅に離れることはできないと思うのですが、委員のおっしゃるのは、もうちょっと深い意味なのでしょうか。

委員： たぶんやっても同じだと思います。しかし、皆様の思いを共有するというここでは、この委員会の中でですね。出てくる項目を集約すると、最終的にこういうことになってしまうのかもしれないですが、一人一人から、こういうものがほしいという、それを共有することかなというふうに思うのです。

それと、5つというのはランクが違うのではないかと。1つめは目標、高山の新しい火葬場の目指すべき姿で、それが備えるべき条件として、2番から5番までがあって、こういうことを満足しなければならない。1から5までを並列で扱うのはどうかな、と。申し上げたかったのはこの2点です。

内容的には、全員で1番目について議論するというをやったとしても、集約するところということになるのかな、というのはなんとなく目に見えているのですけれど。

委員長： 有識者委員に叩き台を作ってもら。それを次回の委員会に出せば、ああだこうだということが言いやすいのではないかと。委員会としては、今の議論を踏まえて、両委員にお願いするという形で今日の結論にいたしませんか。いかがでしょうか。

委員： 異議なし。

委員長： 次回の10月6日には基本方針が出てきて、そこで具体的に意見を述べるというふうにしないと。40人超の委員会では難しいので、そのようにさせていただきたいのですが、異議はございませんか。

委員： 異議なし。

委員： 一点だけ、家を作る場合、まずどのぐらいのお金が借りられるのか。そこから始まってどのぐらいのものが作れるのかという順序があるわけです。このぐらいのお金があるのなら、どこでどうしよう、というのが一般的な感覚です。市は後からお金のことを考えていくので。ただ、そのあたりのイメージを。どのぐらいまで使えるのか、次回までに、大体でよいので。

委員長： 重ねて申し上げますが、お金の話はここが扱う話ではないのです。だから、道路を作らなければならない、拡張しなければならないとなった時、火葬場の建設費用なのか、あるいは市や県がやる仕事を前倒ししてもらおうのか、と。そういう形で考えてもらうわけです。10億で作れとこの委員会で行われたら、できないです。

委員会は天井知らずに考えればよいのです。そこからできることとできないことを具体的に議論すればよいと思うのです。個人の家を作るのとは違うのです。公共投資というものが別個で生まれてまいりますので。

市のほうはいろいろ覚悟をしてもらわなければならないと思いますし、また、こういう施設がいいなという意見に、無駄はダメですという委員も、市が選んだ中に入っていますので。

委員： 初歩的な質問で申し訳ないのですが、火葬場の場所の検討ということですが、これは旧高山市の中で場所を考えるとということなのか、それとも、全体的に。例えば、上宝で使っている神岡の施設が古くなっており、将来的にどうなるかわからない。また、国府も将来的に高山の火葬場を利用するようになるとか。そういうことを考えると、30分圏内とか、いろんなことが考えられますが、丹生川寄りがいいのか、清見寄りがいいのか、国府寄りがいいのか、いろんな問題が出てきます。場所の選定については本当にまだ決まっていない、と。全体の中で考える、という考え方でよいですか。

委員長： それを含めてこの委員会で考えたいのです。この委員会に付託されていて、コンセプトから考えてほしい、ということなので、全部付託されている事項で、現実離れしているのなら市と協議していかなければならないですが、初めから枠を決めているわけではないというふうにご理解いただきたい。

委員長： それでは時間もきております。有識者委員に宿題を投げかけました。それから、分科会のありかたについて、この次はまだ全体会議でやります。そうしてくると、分科会というのは、別に大きな名称はつけませんが、小さく議論したほうがやりやすいということでしたら、副委員長あるいは有識者委員と相談させていただきます。

それから、決して背負っておられる組織にここでは捉われる必要はありません。自由に意見を出し、組織の中だったらこういう意見が考えられるなということももちろん出していただきたいと思います。

副委員長： 真剣にご討議いただき、ありがとうございます。宿題の投げかけられた委員もありがとうございます。いろいろ課題もあります、議論する中で深まるものもあります、そういったことを次回に持ち寄って、議論したいと思います。今

日はありがとうございました。以上を持ちまして終わらせていただきたいと思います。